

柱1 学校のOJTと教育センター等のOff-JTの充実

(事業名・研修名) ◆教育センター等のOff-JTで行われる研修・研究はどうあるべきか。
若年教員育成プログラムの拡充(案)

R 現状分析

- ◆大量退職に伴い若年教員が増加する。
(今後10年間で教職員数の約36%が退職)
- ◆採用年齢は平均28歳で、10年後には中堅教員として学校運営に参画し、中核となる必要がある。
- ◆H24年度若年教員育成プログラムとして臨時的任用教員から初任者、2年、3年経験者の研修を体系的・計画的に実施している。

G ゴールイメージ

- (いつまでに、何を、どのようなレベル・状態等)
- ◆すべての若年教員が「授業づくりのスタンダード」を理解し、それをもとに授業実践ができる。
 - ◆組織の一員として、学校目標に沿った指導が実践でき、信頼される学級・HR経営が行える。
 - ◆H25年度には4年経験者研修を拡充し、第I期のH26・27年度で若年教員育成プログラムの検証を行う。

新たな具体的な取組

P

(取組内容、取組ポイント、アピール等)

- ◆4年経験者研修(H25年度実施)
 - ◇学習指導要領を基盤とした授業経営力の定着
 - ・授業づくりの基礎・基本の定着
 - ・自己課題の発見・解決力の育成
 - ◇実施日数 3日
- ◆チーム協働研修の対象拡大
 - 初任者から3年経験者及び10年経験者に、4年経験者を加え拡充
- ◆若年教員育成プログラムの検証
 - ◇第I期H26・27年度の2年間で実施
 - ◇プログラムを検証・改善し、H28年度以降のプログラムに反映

D

- 現状のモデル内容、他県で実施している内容等
(H24年度若年教員育成プログラム)
- ◆臨時的任用教員研修
 - 社会性の育成、教育公務員としての意識付け、授業力の向上
 - ◇ステージI(2日間)
 - 初めて臨時的任用教員となった者
 - ◇ステージII(1日間)
 - 30歳以下の臨時的任用教員のうち、過去に臨時の経験がある者
 - ◆初任者研修及び2・3年経験者研修
 - ◇研修日数
 - ・初任者研修(18日間)
 - ・2年経験者研修(7日間)
 - ・3年経験者研修(4日間)
 - ◇育成する力
 - 実践的指導力、セルフ・マネジメント力
 - ◆チーム協働研修
 - ◇対象・研修日数
 - ・初任者及び10年経験者 各3日間
 - ・2～3年経験者 各1日間
 - ◇内容
 - ・10年経験者が初任者のメンターとなり、初任者を中心に若年・中堅教員が協働して学び、同僚性を構築する。

C

(評価指標・項目)

- ◆受講者、校長、指導主事の評価
- ◆全国学力・学習状況調査の結果を用いた検証

期待される成果

- ◆授業改善の意識が進み、分かる楽しい授業が工夫できるようになる。
- ◆児童生徒が安心できる学級・HR経営が行われる。
- ◆若年教員と先輩教員が切磋琢磨し、学び合う意識が醸成される。